



2023年6月期決算説明会

2023年8月22日

株式会社キャンバス
(東証グロース 4575)

研究開発の状況

(1) 臨床開発段階のパイプライン

キャンバスの強み がん免疫に着目したパイプライン戦略

中長期の企業価値の源泉として重視

	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究
CBP501 創薬パイプライン型展開				第2相試験 主要評価項目達成・データ取得完了 第3相試験準備進行中	
CBS9106 創薬基盤技術型展開	前臨床試験終了し導出済み			第1相試験完了	Stemline社
CBP-A08 CBP501の系譜に属する ペプチド型免疫系抗がん剤	最適化終了				
NEXTプロジェクト がんの「治癒」を目指す 免疫系抗がん剤 (旧CBP-Bシリーズ統合)	CBT005				
IDO/TDO阻害剤 ほか※					静岡県立大学 ほか

※ 上記のほか、がん免疫領域で広く基礎研究を展開しています。

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究も継続（2020年8月4日公表）

免疫着火剤 CBP501

- 臨床第2相試験（膵臓がん3次治療）：**主要評価項目達成し早期終了を決定。第3相試験へ**
 - ✓ 3剤併用投与群の両方で各4例の3ヶ月無増悪生存ステージ1で早期有効中止
 - ✓ 全群でステージ2をスキップし第3相試験へ向かうことを決定（2022年11月28日公表）
- 米国FDAから膵臓がん対象のオーファンドラッグ指定受領（2023年1月27日公表）
- データカットオフ実施（2023年4月17日公表）
- 欧州臨床腫瘍学会（ESMO）で2023年10月にポスター発表決定（2023年7月20日公表）
- 現在、臨床第3相試験の開始に向けて米国FDAとの協議が進行中

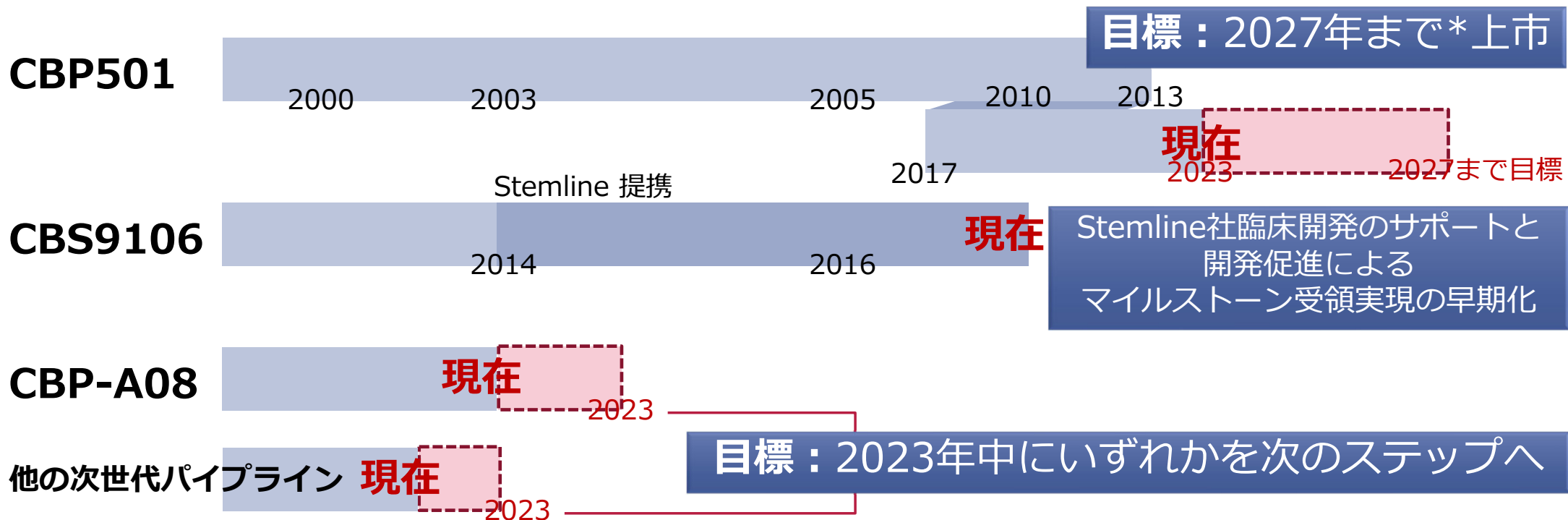
第3相試験の開始準備を進めています

可逆的XPO1阻害剤 CBS9106 (Felezonexor)

- 提携先Stemline社による米国臨床第1相試験完了（2022年2月14日）

XPO1阻害剤のベスト・イン・クラスを目指し次相試験が計画されています

各パイプラインの歩み・現状・目標



創薬企業の2つの事業モデル

*二者択一ではなく、それぞれに多様なバリエーションがあります。

研究開発投資のキャッシュフロー（模式図）

創薬パイプライン型
（自社で承認近くまで開発）

創薬基盤技術型
（比較的早期に製薬企業等へ導出）

☒ ポジティブ面

- 後期開発リスク（資金調達含む）を導出先に転嫁
- 一時金・マイルストーンで早めの収益が実現

☒ ネガティブ面

- 開発進行の主導権が導出先へ移行
- 利益分配への発言機会小 = 獲得機会・比率の毀損

☒ ポジティブ面

- 化合物を最も知る自社が**開発の主導権**を掌握
- 利益分配への発言機会大 = **リターンの最大化**

☒ ネガティブ面

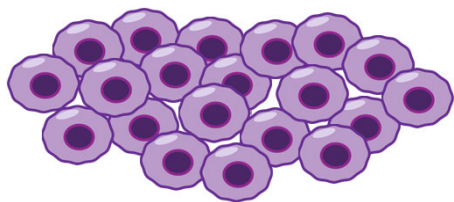
- 後期開発に伴うリスク（資金調達含む）の保有
- 一時金など収益実現までの期間が長期化

- 基礎研究・創出から後期臨床開発まで自社で進めた実績があります
- これを活かし、パイプラインの特徴に沿った柔軟な開発方針の分岐が可能
 - 開発パイプラインごとの開発段階・成功確率・費用見込などによって使い分け、中長期的な企業価値の効果的な最大化を図ることが可能です。
- 各パイプラインの現状の想定と今後
 - **CBP501**：自社で承認まで開発する**創薬パイプライン型開発**を想定
並行して、適応や地域などの部分的導出やアライアンスなども選択肢にできる状況です。
 - **CBS9106**：**創薬基盤技術型開発** 前臨床試験段階で導出、提携先負担で進行
将来のマイルストーン収入とロイヤルティ収入を見込んでいます。
 - 後続のパイプライン候補も基礎研究の成果として生み出されており、それぞれの特徴に沿った開発方針を検討していきます。

免疫着火剂 CBP501

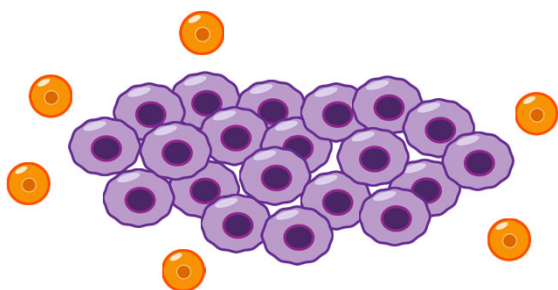
攻撃するための
T細胞がない

免疫砂漠



T細胞ががん組織に
入り込めていない

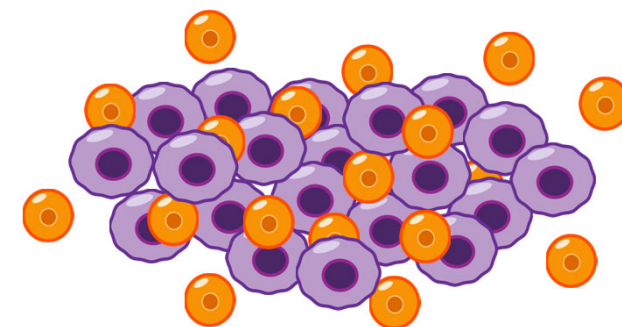
免疫排除



免疫コールドながんを
免疫ホットながんに
変えることが必要

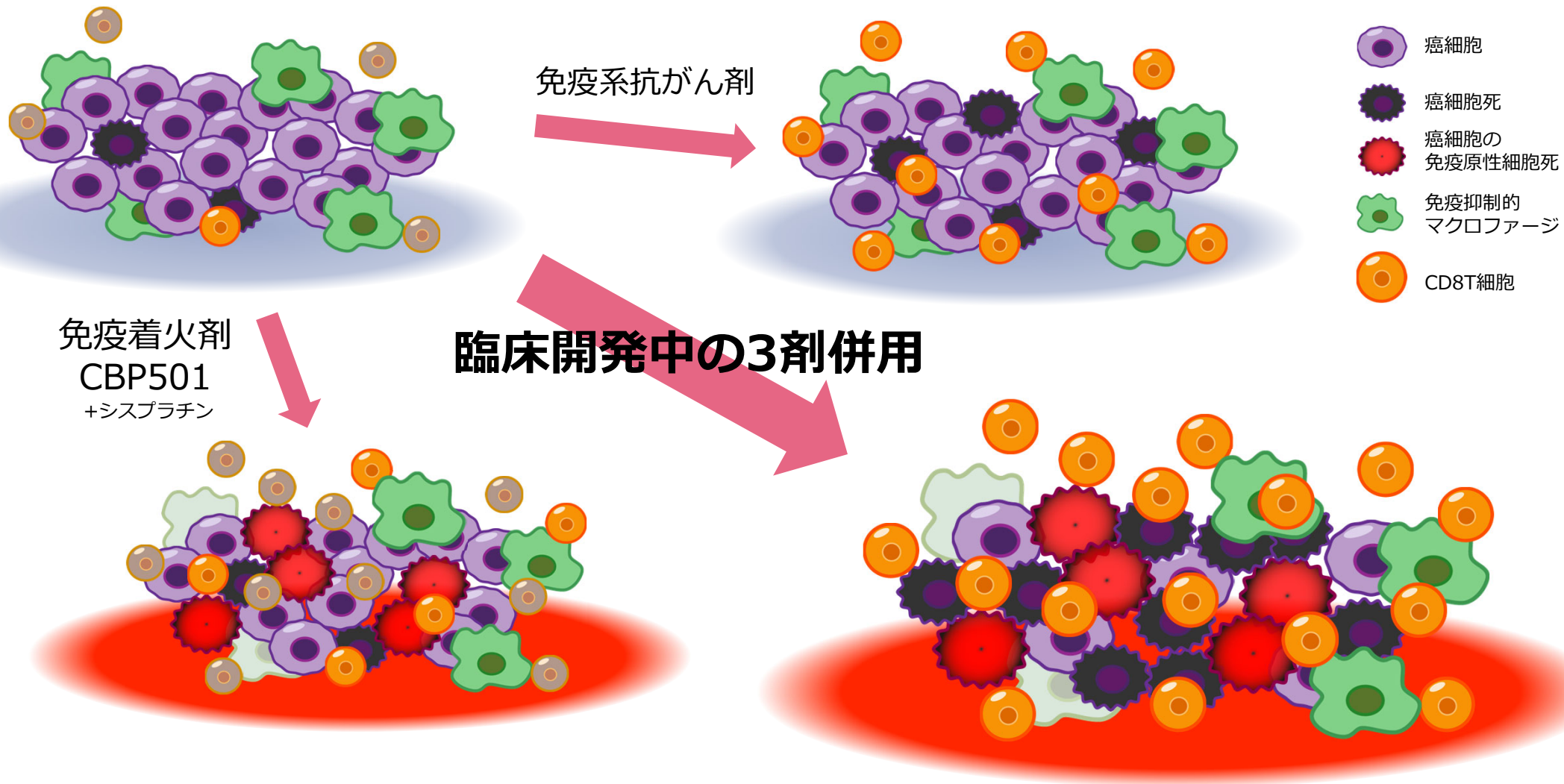
T細胞が十分いて
がんを攻撃できる

免疫ホット

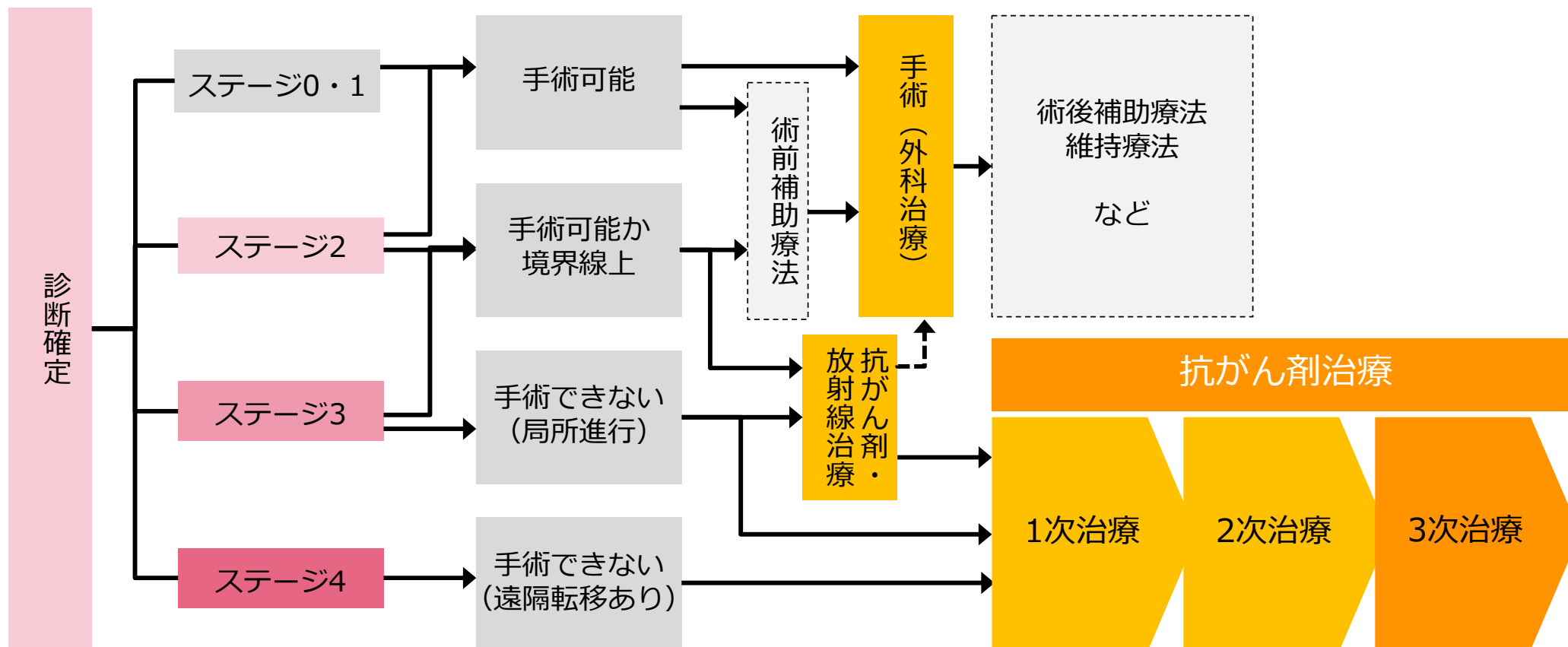


癌細胞 CD8T細胞

CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



診断ステージと治療の選択フロー（概略図*）



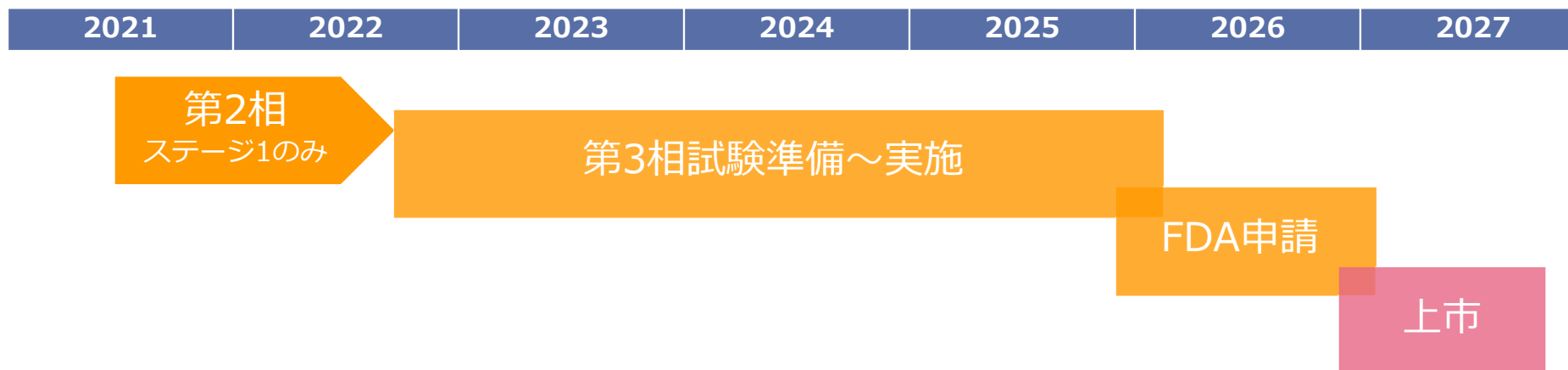
* 一般的な概略を示したものです。具体的な診療及び治療の選択にあたっては、主治医を含む医療チームやがん支援相談センターにご相談ください。

CBP501の初期適応（膵臓がん3次治療）領域での位置

- 既存先行品は市場に存在しない = **市場がまだない**

- 開発競争において開発中止が続く（前頁参照）、CBP501はトップランナーの位置にいる
 - ✓ 2022年1月 Tyme Technologies（2022年9月 Syros Pharmaceuticalsと合併）
「開発品SM-88、膵臓がん1次/2次治療で生存延長なし」 = 試験失敗
 - ✓ 2021年6月 Tyme Technologies
「開発品SM-88、膵臓がん3次治療の患者登録を中止」 = 試験中止
 - ✓ 2021年6月 Corcept Therapeutics
「開発品RELACORILANT、有効性懸念のためこれ以上の研究を正当化できない」
= 膵臓がん3次治療での開発は中止
 - ✓ E7080/MK7902臨床第2相は膵臓がんに関して未だ探索的試験（効果の有無を探る段階）

初期の目標シナリオ（2027年までに上市）の実現可能性を現在も堅持



臨床第3相試験スタートに向けた現在の活動

- ✓ FDAとの試験内容協議
- ✓ 試験開始までと開始後のスケジュールを加速するための準備
- ✓ 試験完遂への資金確保

米国FDAとの協議

- CBP501臨床第3相試験の開始に向けたFDAとの協議
- 具体的な協議の内容や進展の段階・見通しなどについては、公表可能な限り随時公表

関連準備作業

- FDAとの協議と並行して、関連する準備作業を進行
 - ✓ 使用する薬剤の準備
 - ✓ CROとの契約 ほか
- 開始までの期間の圧縮によって、今後のスケジュールへの影響を最小化する狙い

可逆的XPO1阻害剂 CBS9106

進捗状況

- 臨床第1相試験完了 (2022年2月14日公表)

第1相試験データの評価と次相臨床試験検討の状況

- Stemline社SABは本試験で得られた安全性・有効性データを高く評価
- 次相臨床試験検討の状況
 - ✓ 臨床第2相試験は併用試験を想定し、CBS9106と組合せる併用薬の種類と対象癌腫の検討
 - ✓ 対象癌腫候補
 - 臨床第1相試験（対象：固形がん全般）では、複数の癌種への有効性を示唆
 - 大腸がん
 - KRAS変異がん
 - 腎臓がん
 - ESMO2020発表後の患者フォローなども踏まえて別の対象癌腫の可能性も

研究開発の状況

(2) 前臨床試験までの段階のプロジェクト

基礎研究～非臨床試験段階のパイプライン (ピックアップ)

- **CBT005** (2021年11月12日適時開示)
 - ✓ マウス実験段階だが魅力的な抗腫瘍効果データ獲得
 - ✓ 社内の薬効確認試験 (実施中) を経て前臨床試験への進行有無を判断
- **CBP-A08**
 - ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索
- **IDO/TDO二重阻害剤**
 - ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中。COVID-19新規治療薬への用途拡大研究にも着手
- **NEXTプロジェクト**
 - ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出
- **抗がん剤感受性予測システム**
 - ✓ 患者様個々の体細胞変異情報を用いて抗がん剤治療の結果を予測

決算と財務の状況

2023年6月期の業績 (1)損益計算書

2023年6月期損益計算書のポイント

➤CBP501臨床開発で先行投資赤字を計上

- ✓ 2023年6月期事業費用965百万円の内訳：基礎研究費*1 188百万円・臨床開発費*2 482百万円・販管費294百万円
基礎研究費・販管費には年ごとに大きな変動はなく、臨床開発費の増加（＝臨床開発の進捗）が主な増加要因
- ✓ 営業外費用321百万円（資金調達関連費用の一部・社債利息など）、特別利益40百万円（新株予約権戻入益）計上

➤事業収益計上なし

- ✓ CBP501については創薬パイプライン型開発を志向。並行して部分的提携なども引き続き模索

	2023年6月期	前期比	%
事業収益（売上高）	— 百万円	— 百万円	—
営業利益	△965 百万円	△119 百万円	
経常利益	△1,283 百万円	△429 百万円	
当期純利益	△1,244 百万円	△389 百万円	

*1 共通の人員・設備・消耗品等が多数あるため、基礎研究段階のプロジェクト個別の費用内訳は算出していません。

*2 臨床開発費は全額CBP501関連の費用です。CBS9106に関する費用はありません。

2023年6月期の業績 (2)事業収益の推移と今後の見通し

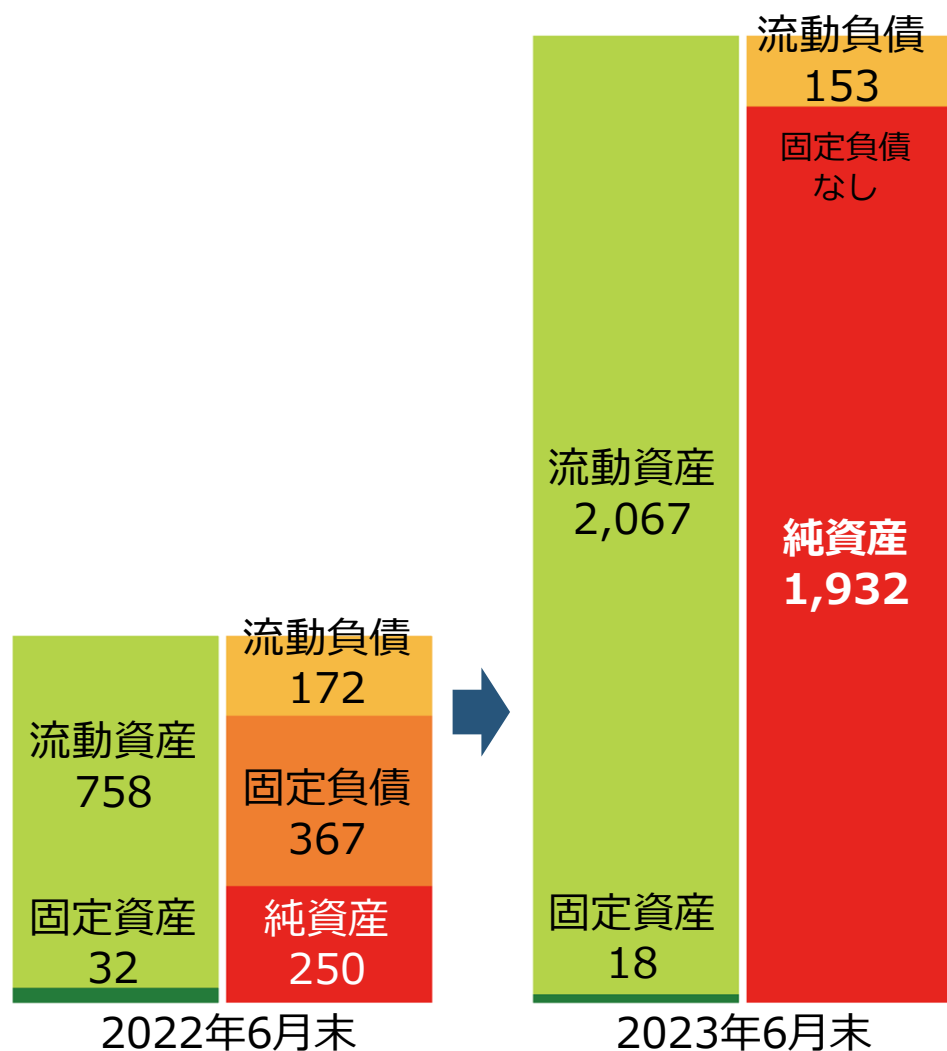
CBS9106ライセンス契約に基づく収益

- 2014年12月締結・2018年8月拡大により、過去に**累計717百万円**を受領済み
- 技術アドバイザリーフィーの期間は**2021年6月で終了**
- **今後もマイルストーンペイメント・ロイヤルティ等の条項は変更なし**
 - ✓ 収益の性質上、具体的な時期・金額の見通しは現時点で困難

新規提携等による事業収益獲得に向けた取り組み

- CBP501
 - ✓ 自社で承認獲得まで進める「創薬パイプライン型」開発を志向
 - ✓ 一方で後期開発終盤の提携市場は依然として活発なことから、地域や適応を区切った部分的提携なども引き続き模索
- その他のプロジェクト
 - ✓ 前臨床試験直前のもの：早期アライアンスによる収益獲得を図る
 - ✓ 基礎研究段階のもの：リード化合物獲得へ

2023年6月期の業績 (3)貸借対照表の推移 (単位：百万円)



2022年6月期末からの主な変化

- ▶ 流動資産 758 → 2,067
 - ✓ 現預金 737 → 1,617
 - 株式発行・新株予約権発行による収入
 - ✓ 前渡金 — → 367
 - 第3相試験準備の一環
- ▶ 固定負債
 - ✓ 転換社債 367 → —
- ▶ 純資産 250 → 1,932

重要な後発事象

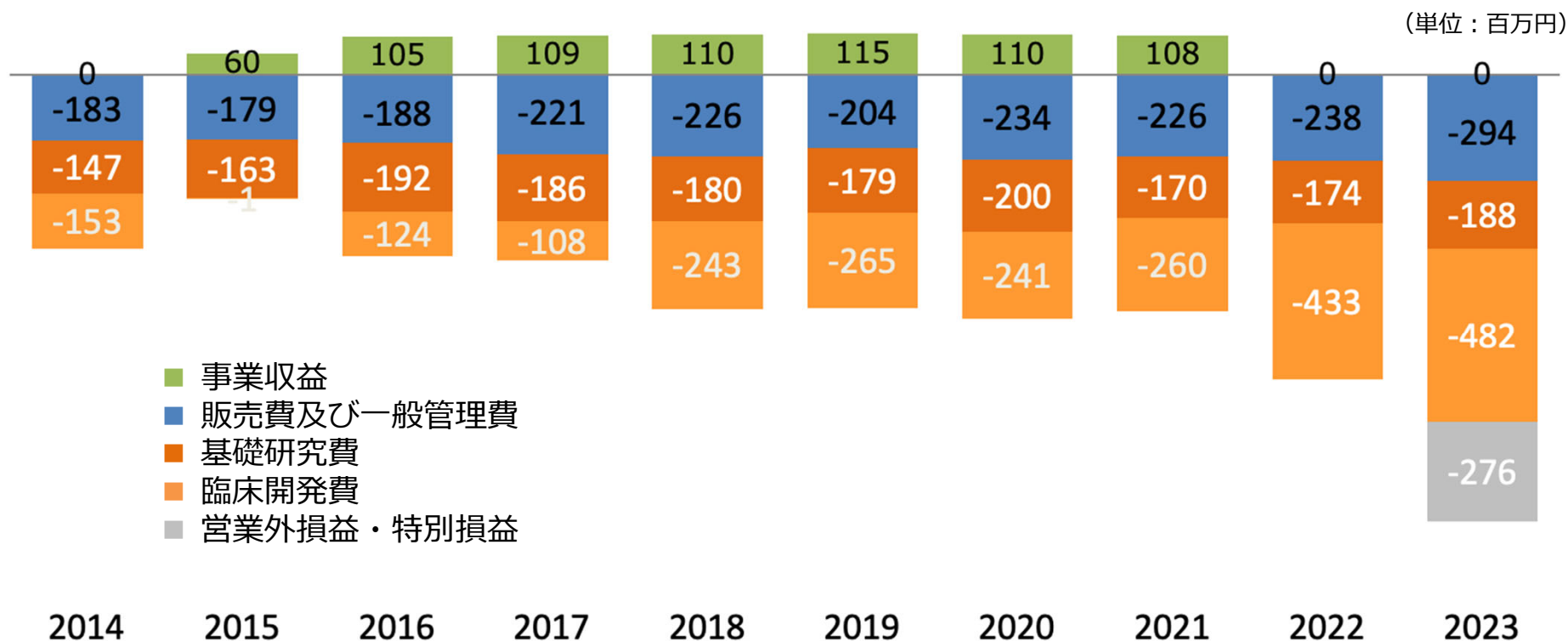
- ▶ 2023年7月以降
第19回新株予約権行使による資本調達が進行

事業費用の過去推移と2024年6月期の業績予想

引き続き不確定要因が多く、2024年6月期業績予想は非公表

✓ 臨床試験の状況次第で研究開発費が大きく変動

参考：過去の事業費用推移



第三者割当新株発行と新株予約権2種の組み合わせ

- 7億円を超える新株発行で、確実な資金をアップフロント調達
- 2種の新株予約権で、株価へのインパクトを抑制しつつ約54億円の段階的調達を目指す

2種類の新株予約権

- ✓ 第19回新株予約権（行使価額修正条項付き）：確実性の高い資金調達を図る
- ✓ 第20回新株予約権（当初行使価額固定、行使価額プレミアム）：より有利な資金調達を目指す
 - 発行日の1年後以降、行使価額修正型へ自動的に切替わります
- ✓ いずれも最大行使株式数は固定されており、株価の動向にかかわらず希薄化の規模は限定的

CBP501は自社で開発を進める**創薬パイプライン型**へ

- 第3相試験完遂までの資金を製薬企業等でなく機関投資家・株式市場から獲得へ
 - ✓ リスクテイク・開発主導権確保・リターン最大化を図る
- 地域や適応で区切った部分導出やその他のアライアンスでアップサイド展開も追求

資金使途及び支出予定時期

CBP501臨床第3相試験完遂までの費用と運営資金に充当

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期	詳細
① CBP501 臨床第3相試験費用	5,500	2023年5月 ～2025年12月	<p>対象疾患： 膵臓がん3次治療 試験形式： 多施設無作為化オープンラベル比較対照試験 被験者数： 合計300名程度 主要評価項目： 全生存期間（OS）</p> <p style="text-align: right;">*詳細内容は今後変更の可能性がります。</p> <p>➤ 上記内容を想定した第3相試験費用見通し 55～65億円 （そのうち約10億円は前回ファイナンスで調達済み） ➤ 差額約55億円を今回のファイナンスで調達する計画</p>
② 運営資金 (基礎研究費用*、 販売費及び一般管理費)	346	2023年7月 ～2024年4月	<p>継続的な基礎研究に係る諸費用 人件費、外注費、事務用消耗品費等の販売費及び一般管理費</p> <p>➤ 2024年5月以降の運営資金は既存の現預金を充当</p>
合計金額	5,846		

*基礎研究費用には、前臨床試験以前の段階のパイプラインであるCBT005、CBP-A08、IDO/TDO二重阻害剤等に関する研究費用が含まれています。

新株発行、第19回・20回新株予約権発行の概要

割当先	Long Corridor Asset Management (LCAM) が一任契約に基づき運用するファンド (LCAO, MAP246)
想定調達額	5,846百万円 (発行諸費用325百万円を除く)
想定潜在希薄化率	合計23.69%

新株式の発行

- 発行価額 1株あたり1,458円
- 普通株式 500,000株 (729百万円相当)
- 払込期日 2023年6月2日

手法・諸条件

第19回・20回新株予約権の発行

- 発行価額総額 19百万円
- 当初行使価額
第19回 1,619円 (= 発行決議日直前取引日の終値×100% / 行使価額修正条項付)
第20回 1,781円 (= 発行決議日直前取引日の終値×110% / 発行日1年後に行使価額修正型へ切替)
- 潜在株式数 3,250,000株 (当初行使価額ベース5,423百万円相当)
- 行使期間 2023年6月5日から2025年6月4日まで

キャンバスを知る情報源

- ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp>
- Twitter公式アカウント <https://twitter.com/canbas4575>
 - ▶ フォロワー5,000人突破。主に個人投資家向けの情報発信/Q&Aチャネルとして定着
- アナリストレポート
 - ▶ フェアリサーチ 2023年6月12日最新版
『[「創薬パイプライン型」へのステップ・アップ](#)』
 - ▶ シェアードリサーチ (随時更新)
<https://sharedresearch.jp/ja/4575>
- TV・インターネット番組等出演
 - ▶ アイロゴス主催 櫻井英明WEB株式講演会&企業IRセミナー
[2023年5月27日配信](#) (河邊・加登住出演)

CBP501

➤ 臨床第2相試験関連

- ✓ データカットオフ 2023年4月17日公表済
- ✓ 欧州臨床腫瘍学会 (ESMO) で2023年10月にポスター発表 2023年7月20日公表済

➤ 臨床第3相試験関連

- ✓ 試験内容・開始スケジュール
- ✓ 試験完遂までの資金確保
 - 機関投資家や株式市場からの資金調達 2023年5月18日公表済
 - 製薬企業等とのアライアンス（ライセンス導出・薬剤提供などさまざまな形の可能性）
 - それらのミックスした手法など

その他のパイプラインやプロジェクト

➤ CBS9106

- ✓ Stemline社による次相臨床試験

➤ CBT005、CBP-A08、感受性予測など基礎研究～早期開発段階の進捗や早期アライアンス



■将来見通し等に関する注意事項

- ▶ 本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- ▶ 本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- ▶ 業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- ▶ 本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示するものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

■お問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当
Email IR@canbas.co.jp